

第61回

各地田

# 福德稻荷神社絵地口

開催期間 1990年9月5日(水)～10月28日(日)

開館時間 9時～16時30分

休館日 10月31日(水)まで無休

入場料 大人100円 児童・生徒50円

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL (0234)24-6544



谷地田稻荷夜会式風景

### 開催にあたって

「お稲荷さん」として民衆の間に広く深く信じられている神社の数は、神社本庁登録だけで、3万を超えるという。路傍に見かける小祠や屋敷神を入れると膨大な数となる。

酒田には「三居稲荷」「福德稲荷」など主なものだけで23座あるが、今回は福德稲荷神社、通称谷地田稲荷の軽妙洒脱な「絵地口」にスポットをあて、稲荷信仰に見られる日本の心と昭和10年前後の世相を垣間見ることにしたい。

展示にあたっては、神社関係者や地域の方々から全面的な御協力をいただいたことを記してお礼申し上げます。



縦×横 (69.0×410.0)〈cm〉



縦×横 (100.0×356.0)〈cm〉



縦×横 (70.0×353.0)〈cm〉



縦×横 (100.0×357.0)〈cm〉

えじくち  
絵地口

谷地田の稲荷神社の夜会式は、今でも参道に「地口行灯」がずらり下げられ、夏祭りが賑々しく行われる。

「地口」とは洒落の一種で、例えば『案ずるより生むが易い』をかりて「杏は梅より安い」というような語呂合わせのことであるが、今ではすっかり形骸化され、子供たちが好きな絵を勝手に描いているだけで、「地口」も「絵地口」も姿を消しているのは寂しい。

図版8枚の大幕は昭和8年頃の作であり、「絵地口」には、当時の世相が軽妙な筆致で描き出されている。

しかし、この絵幕には絵解きの「地口」は、添え書きされていない。

### ■ のらくろが映す当時の世相 ■

田河水泡ののらくろ漫画が『少年倶楽部』に連載されたのは昭和6年（1931）1月号からである。

「子供は犬好き、遊びは兵隊ごっこが好きだから、犬に兵隊ごっこをさせよう」との構想ではじめられたが、忽ち全国少年の人気者となった。

軍隊が舞台で「帝国軍人を犬になぞらえるとは…」といった声もあったが昇進とともに人気は高まり、却って愛国熱をかきたてる結果となった。

その頃の『冒険ダン吉』・『江戸っ子健ちゃん』のフクちゃん・『敵中横断三百里』など、漫画も読み物もそうした時流に乗せられていく宿命にあった。



縦×横 (71.0×410.0) (cm)



縦×横 (100.0×352.0) (cm)



縦×横 (72.0×355.0) 〈cm〉



縦×横 (100.0×353.0) 〈cm〉

### 稲荷信仰と狐

稲荷神社の御神体は狐ではない。  
 狐を田の神または、稲荷神〔宇迦  
 のみたまのかみうかの みたまのかみ之御魂神＝紀の倉稲御魂神〕の使令  
 とみる信仰は全国的に分布している。

「お稲荷さん」は農村部では農業  
 神・漁村部では漁業神・鍛冶職や養  
 蚕地域では生業の守護神、そして都  
 市部では商売繁昌、開運招福、病氣  
 治癒に靈験あらたな神として信仰を  
 あつめていた。また、全国で古城址  
 の片隅に多く稲荷社が祀られる言い  
 伝えも「危急時に狐の超能力が、お  
 家の一大事を救う働きをする」との  
 共通の類似信仰による。これらに狐  
 神や狐憑きの信仰が、複雑にからん  
 で民衆に密接し、多様性に富む展開  
 を示している。